

会 議 録

会 議 名	令和元年度第2回 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会	
開 催 日 時	令和元年12月20日(金) 午後3時から午後5時30分まで	
開 催 場 所	東浦町役場西会議室	
出 席 者	委員	高野雅夫(委員長)、成田盛雄(副委員長)、蟹江吉弘、中瀬進吾、 榊原豪、山本隆明、平野智子、野崎麻里、鈴木真子
	事務局	企画政策部長、企画政策課長、企画政策課課長補佐兼企画政策係 長、企画政策課主査(2名)
議 題 (公開又は非公開の別)	<ol style="list-style-type: none"> 1 東浦町の人口の現状について 2 第2期東浦町人口ビジョン(案)について 3 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要等について 	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)	—	
傍聴者の数	無	
審 議 内 容 (概 要)	議題の審議内容は、別紙のとおり	
備 考		

審議内容（概要）

議題

（1）東浦町の人口の現状について（資料1）

事務局から「資料1」について説明を行った。

ア 資料1の東浦町の強みの中に「子育てがしやすい」と記載されているが、根拠は何か。
⇒ 町の取組みとして、これまで子育てに力を入れて来たという自負もあり「子育てがしやすい」とした。保育園は保護者が就労等の理由により家庭で保育できない場合に利用する施設である。しかし、本町の保育園では、3歳以上であれば家庭保育が可能な子どもでも私的契約児として受け入れている。また、子育てに関する交流・相談の場として「子育て支援センター」を設置し、町内外から多くの利用をいただいている。児童館についても各小学校区に設置しているが、小学校区毎に児童館のある自治体は珍しいのではないかと。保健センターも子育てには力を入れており、検診の受診率は県内トップクラスとなっている。

イ 自分の周りの子育て世代（30名程度）に対して「東浦町の子育てについてのアンケート」を実施したが、結果は「子育てしやすい」の回答と「どちらとも言えない」の回答が半々となっている。母親が何に対して子育てがしやすいと思うか、生の声を聴いて欲しい。

ウ 過去に住民懇談会に参加したことがあるが、行政が設定した時間、場所に行ける母親は少ない。住民を呼ぶのではなく、住民が集まっているところに聴きに来て欲しい。

エ 第1子を他の自治体で出産し、第2子を東浦町で出産した方のアンケートの回答では、東浦町の子育てのしやすさを「どちらでもない」と評価している。また、「他市町と比較して月例での交流の場が圧倒的に少ない」と意見を書いている。

オ 自分自身、第1子を刈谷市で出産し、第2子を東浦町で出産したが、確かに東浦町は刈谷市と比較して月例での親同士の交流の場が少ないと思う。親同士のコミュニケーションの中で、気づきが生まれたり心が楽になったりすることがあるので、そのような場が増えるよう考えて欲しい。

カ 住民懇談会のように「こういう場を作るので来てください」と言われも、かなり熱い思いを持った人でなければわざわざ意見を言いに行くことはないのではないかと。サークルなど、知り合いが集まっている場ならば、ちょっとした意見も言いやすいと思う。

キ 母親の立場からの意見だが、産後の母親の心身のケアを充実させる必要があると思う。検診などで保健師の目に留まればケアがあるのかもしれないが、自分自身サラッと終わってしまった印象がある。チェックシートの項目だけではわからないこともあると思うので、もっと「お母さんを元気づける」という意識があると良いと思う。

ク 産後うつという病気があるが、産後うつ患者は自分がうつ病という自覚がない。検診時のチェック項目に母親の心のケアを増やしても良いのではないかと。

ケ 近年は核家族化が進んでいるので、母親は心細い思いをしている人も多いと思う。両親が近くに住んでいたとしても、迷惑をかけるのではないかとと思うと相談しづらいし、両親が働いていて頼れないケースもある。

コ 相談窓口を開いても、待っているだけでは人は来ない。また、町がやろうとしてもでき

ないことがあるので、子育ての問題にもっと地域が介入していかなければならないのではないか。

サ 産後に訪問する主任児童委員は地域の方だが、基本的には1度見に来るだけ。初対面の人には相談しにくいこともあるし、産後うつはかかるタイミングが人によって違うので、単発のケアではなく、継続的なケアが必要だと思う。主任児童委員だけでは数が足りないので、地域の中に町の窓口へのつなぎ役をもっと増やさなければならない。

シ 区画整理をすれば出生数は増えるが、区画整理地区内に居を構える人のほとんどは核家族である。昔のような地域ぐるみの子育て環境がない中で、どれだけきめ細やかに母親をケアするかが大切だと思うが、それは行政だけでは絶対にできない。非常に難しいところなので、どの自治体も手を出していないが、東浦町が力を入れれば他自治体との差別化を図れる部分だと思う。

ス 東京圏へ東浦町をどうアプローチしていくのかビジョンがない。三重県のように知事自ら育休を取るくらいでなければ全国的なアピールにはならない。

セ 東浦町はIターンで来てもらう必要はなく、Uターンに力を入れるべき。東京に進学した人にどう戻ってきてもらうかが重要である。

ソ 東浦町はもっとアットホームな保育園、小学校、中学校、高校を目指してはどうか。人生の中で一貫して自分を知ってくれている人の存在は大きい。今後、待機児童の解消や幼保無償化への対応として、保育士1人当たりの児童数は増える方向だと思う。その中で、その方向に逆行して少人数で保育をしてみてもどうか。

⇒ 全国的に保育士不足が深刻であり、東浦町も例外ではない。また、東浦町では指導的立場の保育士を増やすため、経験者の枠を設けて保育士を募集している。

タ 保育士に限定せず、シルバー人材センターや地域の方が園内で子どもを見守るような仕組みがあっても良い。

(2) 第2期東浦町人口ビジョン(案)について(資料2)

(3) 第2期東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要等について(資料3)

事務局から「資料2」及び「資料3」について説明を行った後、これまでの国の取組みに対し、中瀬委員から提言

主な意見は以下のとおり

チ 観光資源を新たに生み出すことは難しいが、人が活躍する場ならば比較的簡単に生み出すことができる。女性が活躍する場を新たに生み出すために、具体的にどのようなことをしていくかを考えていかなければならない。できることをやっていくというスタンスで進めていくと良いと思う。

ツ 東浦町の活性化について学校教育の観点で考える上で交通は切っても切れない関係にあると思っている。中でもJRは適切な時間に到着しなかったり、なおお且つちょうど良い通学時間のダイヤがなかったりと、遅れと接続の点で学校教育を脅かす存在として脅威を感じている。基本目標(4)「交通が便利で快適に暮らせるまちをつくる」の数値目標が「町運行バスう・ら・ら利用者数」となっているが、コミュニティバスの運行に留まらずJRに対して鉄道利便性向上を要望することはできないか。

テ 人口を減らさないためには人口を定着させる場所が必要になると思うので、新たな住宅地の開発も必要だと思う。

ト 総合戦略の中で個別の施策を考える際には何をすればどの数字が動くかを意識しなければならない。今日提示された資料の中では、稼いだ所得が町内で消費されているのか疑問を持った。東浦町の所得は県下でも上位であり、人口を動かすポテンシャルがあることはデータが証明している。では、どうやって人口を動かすかと言えば、それが町内外の方に知ってもらうための取り組みや、暮らしの環境を改善することで結果は変わる。簡単に言えば、自然増減を止めて社会増減をイーブンに持っていくのが人口増の方法だが、女性の転出の原因は何なのか、転出者はなぜ半田市に出て行っているのか分析が必要である。おそらく何らかの経済的合理性があるのだと思うが、原因があるならばそれを止める手立もあると思う。

ナ 心配なのは、目標の一丁目一番地として出生率を1.8を掲げているが、それを実現するためのコストはどれくらいかかるか、それを実現した際にどれだけリターン（税金）が得られるかというデータが出ていない。そのため、これを目標にして良いのか自体わからない。施策を進めるにはコストがかかるはずだが、かかったコストがいつ回収できるかというシミュレーションがないと力を入れる度合いがわからない。

ニ JRの利便性については是非改善して欲しい。単線だから仕方ないと言われればそれまでだが、阿久比町の出生率が上がっている要因の一つとして名古屋へのアクセスの良さがあると思う。阿久比町は名鉄で急行が停まるため、東浦町より名古屋へのアクセスが良いのではないかと。

ヌ 子育てと仕事の両立は難しい。世帯の収入を上げようと考えたときに、働いている人の収入を上げるよりも働いていない人が働いたほうが近道である。自分の経験談だが、仕事を拡大するために店舗を借りようとした時に、金銭面をはじめ様々なハードルがあった。事業をしたくても借金をするととなると怖くて手が出なくなってしまう。自分と同じような思いをしている女性は他にもいると思うので、女性が活躍できる施策を考えてもらいたい。

ネ 東浦町は借りられる店舗が少ない。商店に活気も感じないし、特に南に行くにしたがって尻すぼみになるイメージがある。起業を志す人が起業する場所がないのは問題だと思う。

ノ 働きたいけれど働けない女性は多いと思う。町外だが、子どもを持つ働きたい人を集め、託児付きの内職のようなことをしている事業所もあると聞いている。子どもを見ながら皆で働く場として、空き家をうまく活用できると良いと思う。東浦町はレンタルスペースやスタジオがない上に、コミュニティセンターも営利目的では使えない。そのため、結局、町外へ行かなければならなくなる。町外では町内の人に来にくくなってしまう。

ハ 第1期と同じことをやっても目標は達成できない。もっと大胆なことを考えなければ目標達成は無理だと思う。第1期を策定した時も会議自体は盛り上がったが、その内容は総合戦略に反映されていない。盛り上がった内容が個別の話なので総合戦略に反映しにくいこともあると思うが、それでは委員が集まる意義が無くなってしまう。国が

らの指示でメンバーを選定し、会議を開いているのだと思うが、それだけではつまらない会議になってしまう。個人的には子育ての町として東京にも聞こえるような取組みをしていかなければ目標は達成できないと思う。国も出生率を改善するような取組みを必要としているし、予算もつけると言っている。その予算をどこに取ってきてどこに使うのかという話だが、子育てに重点を置いて進めていけば良いのではないかな。

ヒ 重視すべきポイントの1番目に「関係人口」を持って来ている理由がわからない。田舎は都市との関係が切れてしまっているので関係人口が必要だが、東浦町の町民は日々都会に通勤している。1番は子育てではないかと思う。

フ 次回は子育てにポイントを絞って議論し、その内容をそのまま総合戦略に入れてもらいたい。その他の施策は事務局に一任する。このままでは検討委員会の議論と結びつかない総合戦略が出来てしまう。委員も包括的に知識を持っているわけではないため、子育てというポイントに絞って総合戦略に反映できれば良いと思う。

へ 次回は今回のような会議形式ではなく、ざくばらんに話ができるようワークショップのようなイメージで進めさせて欲しい。

午後5時30分閉会